愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	教育・保育相談		
担当者(Instructors)	堀 篤実	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本講義は、幼児・児童が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援することを目的とする。　教育相談の意義と課題を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を修得する。発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を検討する。不適応や問題行動の意味並びに発達障害等への理解を深め、カウンセリングの基礎知識を得ることでそれらへの対処の方法を修得する。教育相談の計画の作成や行内体制の整備など、組織的な取り組みの必要性を理解する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	ディスカッションを取り入れて行う。また、ロールプレーについて学ぶ。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス　教育相談とは	教育相談の講義の概要、事前事後学習、受講の留意点	□
第2回	教育相談の目的とありかた	１教育相談とは　２教育相談の歴史　３教育相談のあり方	□
第3回	学校で起こる諸問題①多様化する不登校･いじめの理解と対応	１不登校の定義と現状　２不登校生徒への対応　３いじめの定義と現状と対応	□
第4回	学校で起こる諸問題②神経症的問題･反社会的行動	１神経症的問題の成り立ちと対応について　２反社会的行動と心理的背景	□
第5回	発達障害の理解と対応	１発達障害とは何か　２学校で問題となる３つの発達障害	□
第6回	カウンセリングの基礎知識①カウンセリングマインドとは	カウンセリングにおける聴く技術と聴く心	□
第7回	カウンセリングの基礎知識②カウンセリングの諸技法	カウンセリングの基本的技法と応用　試験	□
第8回	保護者への保育相談支援の意義	保育相談支援のあり方、立場性と関係性の理解する	□
第9回	保育の特性との専門性を生かした相談支援	保育現場の子どもと保護者の支援、地域の子育て支援の現状を理解する	□
第10回	保育現場から小学校への連携と、地域における関係機関等の連携・協力	連携・協力から支援する現状を理解する	□
第11回	幼稚園・保育所および小学校における相談支援の現状	相談支援の現状からさまざまな事例をロールプレーを通して体験する	□
第12回	特別な対応を要する家庭への支援	障害児を持つ保護者、虐待等の保護者に対する支援の現状を事例から学ぶ	□
第13回	保護者への相談支援の方法と技術	保護者への相談支援の方法と技術をロールプレーを通して問題点を学ぶ	□
第14回	保護者への相談支援の内容と限界	育ての問題、保護者自身の問題等、多岐にわたる相談内容と限界について学ぶ	□
第15回	保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス	保育カンファレンスの実際とカウンセリングマインドの重要性を理解する	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、次回の講義テーマの読解と問題点を見出すために２時間程度の学習を課す。 事後学習として、授業内の資料やプリントを参照に２時間程度でまとめることを課す。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業後毎回、課題を提出してもらいます。課題は採点され、フィードバックします。全体で共有したほうが良い内容については全員に紹介します。ロールプレーに関わるレポートは全体で話し合います。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019子ども発達DP2	教育・保育の現場で起きている問題や課題に対し、子どもや保護者の支援を行うための力強い思考力・判断力を身につけ、実践力を修得できている。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	小学校教員・幼稚園教員・保育士になるために、表現力を軸にしつつ対人関係力や探求心、さらに免許と資格に必須の知識力といった基礎的な資質能力を身につけ主体的能動的に行動することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
50%			20%	30%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業後、毎回課題（小テスト）、または振り返りのレポートを提出(30%）。授業内での発言や参加意欲などを総合的に評価（20%）。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	適宜プリントを配布します。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		